

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R6年 11月 15日 ～ R7年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 3		3
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日 ～ R7年 2月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4		(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	完全個別療育	1日1枠のみ受け入れとし、完全個別療育を実施しています。標準化されたアセスメントツールと、日々の活動の中で設定した課題に応じて、適切なアセスメント方法を吟味し分析したうえで評価し、個別の標的課題を設定しております。	保護者の方からのニーズにも寄り添い、支援計画を作成しています。また、保育所等訪問支援も今年度から開始しており、事業所内の様子だけでなく、様々な場面でのお子様をとらえられるよう努めています。
2	個々に合わせた多様な支援内容	利用毎に細かく支援記録を作成し、日々の振り返りを行い、活動や課題内容が固定化しないよう工夫しています。担当スタッフを固定せず、汎化させています。次のライフステージを見据えた利用時間の提案もしています。	支援方法をロールプレイングなども行ない、事前に様々な対応を想定して準備しています。
3	保護者との情報共有の多様さ、スムーズさ	支援している様子を参観できる時間を設け、具体的にどんな支援をどんな場面で行っているのか、実感していただけるようにしています。参観後、話し合う時間も設け、支援内容の説明も行なっています。	連絡ノートに支援内容を利用毎に記録し、お渡ししています。気兼ねなく相談していただけるよう、環境・雰囲気づくりに努めています。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中で他の子どもたちと活動する	完全個別療育を行っており、90分という時間制限の中で地域の子どもたちとの交流活動を組み込んでいくことが難しい状況です。また、土台形成の時期に、他児との関わりは難しく、保護者からの要望もありません。	室内以外の活動の中で、公園での外遊び、公共施設などへの外出活動で地域の子どもたちと場所の共有をすることはあります。公共の場での遊び方・過ごし方などは活動に取り入れています。また、瀬戸市自立支援協議会主催のまっとつながる祭に毎年体験ブースを出展し、地域の方々に活動を紹介する取り組みを続けています。
2	保護者同士の関わり	毎利用時に活動を参観して頂く時間も設けています。しかし、1日1枠の受け入れの完全個育を行っております。必然的に保護者同士で関わる機会がありません。	現在保護者会など開催しておりませんが、今後、年齢や発達段階が似ているお子様の保護者の方を集め、座談会などの講座を開くことを検討しています。
3	兄妹児との関わり	1日1枠の受け入れのみであるため、必然的に兄妹児を同時に受け入れることは難しいです。	児童発達支援の取り組みとは別に、兄妹児が参加可能な体操の教室を開催しています。また、今後親子・兄妹児が参加可能なイベントを企画しております。